

12.6

秘密保護法制定からの2年を問う

秘密法と戦争法がつくる 「準戦時体制」とは何か

とき

2015年12月6日(日)

13時45分～16時30分 (13時15分開場)

ところ

千駄ヶ谷区民会館2階ホール

(東京都渋谷区神宮前 1-1-10)

交通: JR 山手線 原宿駅(竹下口)より徒歩約6分

地下鉄千代田線 明治神宮前駅(2番出口)より徒歩約8分



挨拶 海渡雄一さん (「秘密保護法」廃止へ! 実行委員会 弁護士)

講演 保阪正康さん (ノンフィクション作家・日本近現代史研究者)

「秘密法と戦争法がつくる『準戦時体制』とは何か」(仮題)

■ 質疑

■ 発言

新聞労連

共通番号いらぬネット

盗聴法廃止ネット

戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動実行委員会

■ 参加費 700 円

■ 主催 「秘密保護法」廃止へ! 実行委員会

■ 連絡先

新聞労連 jnpwu@mxk.mesh.ne.jp / 平和フォーラム 03-5289-8222 / 5・3 憲法集会実行委員会 (憲法会議 03-3261-9007 /

許すな! 憲法改悪・市民連絡会 03-3221-4668) / 秘密法に反対する学者・研究者連絡会 article21ys@tbp.t-com.ne.jp / 秘密法

反対ネット (盗聴法に反対する市民連絡会 090-2669-4219・日本国民救援会 03-5842-5842)

秘密保護法制定から2年になります。安倍政権は、秘密法制定に続き、平和を求める圧倒的な声を無視し、戦争法の成立を強行しました。

秘密法と戦争法が連動し、「戦争は秘密、嘘からはじまる」時代が到来しようとしています。こうした事態に、長い間、政治的な主義主張は掲げないとしてきた保阪正康さんは戦争関連法に対し、強い危機感を抱き、反対の立場を鮮明にしました。近代史研究家の保阪さんをお招きし、安倍政権とはどういう政権なのか、また、私たちはどう対応すべきなのか、お話ししていただきます。ぜひ、ご参加ください。

【講師プロフィール】

1939年、札幌市生まれ。

ノンフィクション作家。

「昭和史を語り継ぐ会」主宰。

2004年、個人誌「昭和史講

座」などの一連の昭和史研究で菊池寛賞。『昭和史のかたち』(岩波新書)、『安倍首相の「歴史観」を問う』(講談社)、『戦場体験者 沈黙の記録』(筑摩書房)、『昭和史の教訓』(朝日新書)、『あの戦争は何だったのか』(新潮新書)など著書多数。

